

グループ活動紹介

エスケー石鹸(株) における活動

エスケー石鹸(株)技術部 秋元美由紀

Group
Activities

1. 当社沿革と組織

当社は1918年創業以来、用途で言えば衣類洗濯用、食器洗浄用、パーソナルケア用の石けんを、形状で言えば粉末、液体、固形の石けんを作り続けているメーカーである。加えて、1983年頃よりハミガキ剤の開発、製造、販売もっており、日常生活における洗う、というシーンに寄り添う製品を扱っている。また、2001年には石けんメーカーとして環境への責任を考えて、【環境・安心・安全】というテーマを掲げ、水を汚さない・人に地球にやさしい製品を製造販売している。また、環境についての取り組みを全社的に行っており、社内では無駄遣いをなくす試み、回収した廃油を原料とし石けんにするリサイクル製品の製造、販売を、社外では小学生を対象とした環境学習などを行っている。

技術に関する部門は生産本部にあり、以前は開発

部、品質保証部、製造部から成っていた。現在は2012年10月より、開発部と品質保証部が統合され生まれた技術部と製造部から成る(図1)。開発部門で設計した製品を製造部で加工、生産し、品質保証部門による確認を経て出荷されるという流れになっている。品質工学に関して、特別な研究会や勉強会、組織を持つといった状況にはなく、品質工学の考え方を何らかの形で業務に利用しているものは、現在のところ主に技術部員である。

2. 製造技術、製品開発に関する問題

当社は、石けんメーカーとしての歴史は長くあるものの、製造部で蓄積されたノウハウや技術の伝承が的確に行われていない事例が見られるようになってきた。定められた手順書に沿って製造した製品が、検査の段階で出荷不可となってしまう、といった事例である。こうした事例はある日突然起こり、トラブル対応、改善活動等による処置を施す。出荷可能となるものの、もちろん根本的な改善がされたことにはなっていない。また、何事もなく出荷したはずの製品についてお客様から品質についての問い合わせが入ることがある。品質保証部門ではこういったクレーム対応に多くのエネルギーを費やすことになり、不健全な状況に陥ることがある。これは製品開発がうまく行われていなかったと言い換えることもできる。つまり、

- ・蓄積されてきたノウハウや技術そのものに見つかった誤りの是正
- ・会社にとっても、技術者にとっても未知の領域についての技術的検討

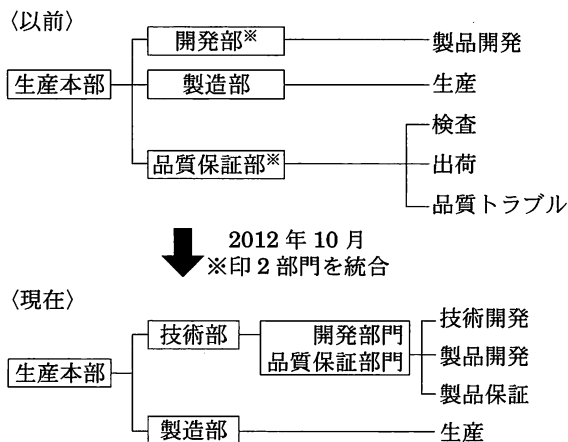


図1 当社技術部門の組織